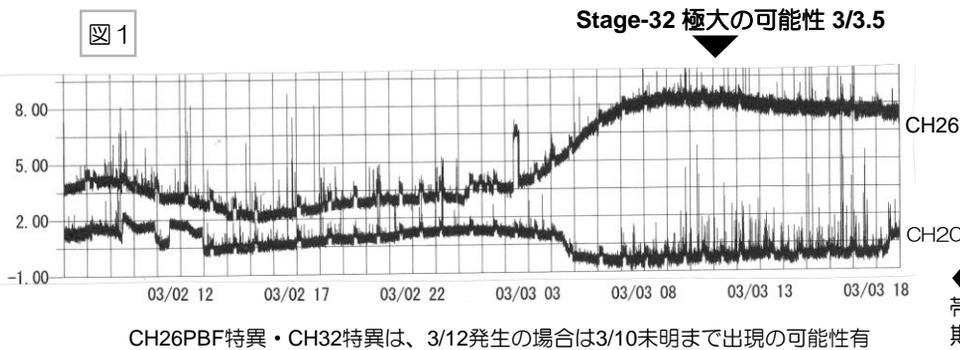


※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。2024年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、深海補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

No1778長期継続変動 Stage-32 PBF特異継続 極大修正 → 3/3.5 極大認識

PBF特異極大 3/3.5 の場合 3/12±3 示す ← 対応地震発生の可能性有

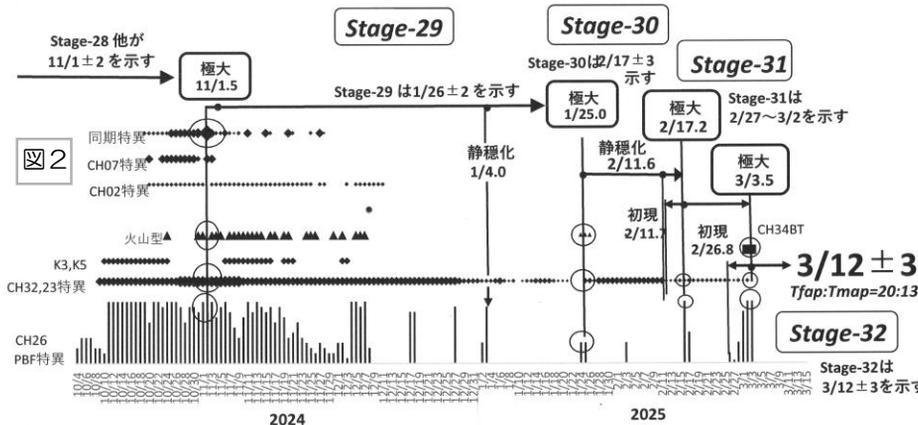


◆前号 3/1夕方方の配信時点では、Stage-32のPBF特異極大を3/1.0認識で報告いたしました。しかし、PBF特異は継続しました。

◆PBF変動は周期が伸びた時間帯が極大ですが、PBF特異は周期が短い時間帯が極大です。現在迄で周期が短い時間帯は3/3の風傾です。3/2中のPBF特異より変動値が小さいですが、周期が短いため、3/3.5極大の可能性が示唆されます。

◆3/3午前中からCH26の基線が弱いBTとなっています。3/2と3/3に八ヶ岳のCH34にも基線幅増大BTが観測されています。

◆極大=3/3.5の場合は、初現=2/26.8から T<sub>fap</sub>:T<sub>map</sub>=20:13 経験則使用で 3/12±3 が示唆されます。今後の観測で3/12±3以前の可能性や、3/12±3に極大が出現した場合は続報させていただきます。



●推定領域：図3の太線領域内=大枠推定領域  
図3斜線域=可能性が考えやすい推定領域  
震央が火山近傍領域を含む可能性高い

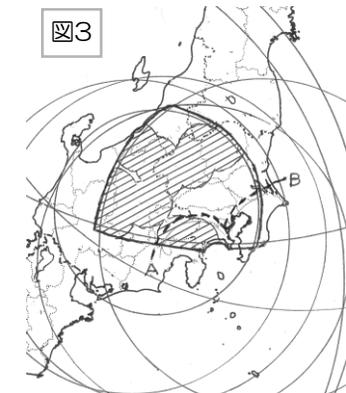
●推定規模：主震 M8.0±0.3 または  
複合の場合=M7.3±0.3 + M7.1±0.3 他等  
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.) 式で 余震を含まない大型地震の断層長 Lkmが合計で約110~150km程度となる様な複合地震活動の可能性（群発的な活動の可能性も有）  
※直近で噴火の可能性が考えられる変動はないため、現状では震央近傍火山の噴火の可能性は考えにくい

●推定時期：3月12日±3 の可能性  
（※上記時期に極大出現の場合は上記時期否定 続報予定）

○推定地震：震源浅い陸域地殻地震

○推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3（午前09時±2の可能性若干高い）

※30年の観測で初めて体験する長期継続変動のため推定が間違っている可能性も否定困難



A~B弧線以南の可能性は極めて低い